**【小学校・中学校・義務教育学校用】**

令和５年度学校評価 結果・学校関係者評価

| 学校名 | 佐賀市立鍋島中学校 |
|---|---|

**達成度（評価）**
**A**：十分達成できている
**B**：おおむね達成できている
**C**：やや不十分である
**D**：不十分である

| | |
|---|---|
| 1　前年度<br>評価結果の概要 | **・［主体的な学びの工夫～「つまり」「たとえば」「なるほど」「そうね」が飛び交う授業を目指して～］というテーマのもと、全職員で研究を進め、研究発表を実施した。教師の指導力向上に努め、『学び合い』で対話を広げ、仲間とのつながりの中で学ぶことの大切さを実感させることができた。今後は、思考力・判断力・表現力を高め、自分の考えを書く活動を全ての教科・領域等で仕組んでいく必要がある。**<br>**・生徒会活動やボランティア活動の活性化、生徒一人一人の実態に応じた開発的生徒指導などに取り組み、生徒の自主的な活動や出番を増やし、取組を承認していくことで自己肯定感を高めることができた。**<br>**・さらに教師の指導力を向上させ、わかる・楽しい授業づくりに努め、エンカウンターやＧＷＴなどによる居心地の良い学級・学校づくりに取り組み、教育相談の充実やＱＵの分析を活用しながら、不登校生徒数を減少させていく必要がある。** |
| 2　学校教育目標 | **「自他を大切にし、創造性豊かに自立した活動をする生徒の育成」** |
| 3　本年度の重点目標 | **○【『学び合い』による学力向上】鍋島中における『学び合い』を実践し、「主体的な学びの工夫」を研究主題とし、人と関わり、自ら学ぼうとする生徒の育成を目指す。**<br>**○【『自己指導能力の開発』を目標とした生徒指導】生徒理解と望ましい人間関係作りと生徒指導の三機能が図れる取組を実践し、３局面（成長を促す指導・予防的な指導・課題解決的な指導）での共通指導を充実させる。** |

**4　重点取組内容・成果指標**　　**5　最終評価**

**（1）共通評価項目**

| 重点取組 | | | 具体的取組 | 最終評価 | | 学校関係者評価 | | 主な担当者 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 評価項目 | 取組内容 | 成果指標<br>（数値目標） | | 達成度<br>（評価） | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 | |
| ●学力の向上 | ○全職員による共通理解と共通実践・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践<br>「鍋中学び合い」を取入れた授業実践 | ○全職員が校内研究に取り組み、「鍋中学び合い」を実践することで、授業実践力が向上したと回答する教師が80%以上にする。 | ・全職員が業績評価や能力評価につながるような学習指導計画を作成する。<br>・全国や県の学習状況調査において無解答率を下げるために、授業の中で書く活動を充実させる。 | B | ・「鍋中学び合い」を授業に取り入れ、生徒は学力がついていると認識している。また、80%以上の職員が学力向上につながっていると感じている。<br>・無解答率減少の手立てを、授業での実践を踏まえて見直し加筆修正した。また、各教科で手立てが有効であったか検証材料を用いて分析するなどし、無解答率の改善や授業の活性化を図った。 | B | ・子どもたちが「鍋中学び合い」の授業を受け、90%以上が「学力が身についた」とアンケートに回答していることは、とても評価できる。 | ・学力向上コーディネーター<br>・研究主任 |
| ●心の教育 | ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 | ○道徳に関するアンケートにおいて、「自分や他の人を大切にし、いじめのない学校生活を送ることができている」と回答する生徒80%以上にする。<br>・生徒及び教職員の人権・同和教育への理解を深める。 | ・人権講演会（人権集会）や民主的な合意形成の取組を図る。<br>・道徳科の授業づくりに関する校内研修の実施 | A | ・2年社会科の身分制度と連携し、人権・同和教育に関する授業を道徳科の時間で実施した。<br>・「自分や他の人を大切にし、いじめのない学校生活を送ることができている」と回答する生徒は84.6%であった。<br>・家庭と連携し、ふれあい道徳を実施した。また、生徒各自が毎時間後に記入する「学びの履歴」を通知表と一緒に各家庭に渡した。 | A | ・いじめのない学校生活を送ることができていると多くの生徒が感じているのは、良いことである。また、いじめ事案が起こっても重大には至っていないので、今後もこの取組を継続してほしい。 | ・生徒指導主事<br>・道徳教育担当教員<br>・人権・同和教育担当教員 |
| | ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 | ○いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等）について組織的対応ができていると回答した教員90%以上。 | ・月１回の生活アンケートの実施<br>・Q-Uテストの分析と活用に基づく学級生活不満足群の改善<br>・ネットトラブルに関する研修会の開催 | B | ・確実に生活アンケートを実施・共有し、早期対応できた。「組織的に取り組みができている」「少しできている」と回答した職員は100%であった。<br>・年2回全職員で、hyper-QUテストの分析を行い、学級生活満足群の生徒が増加するよう、行事等で声掛けや出番・役割・承認を行い、自己肯定感を高めるよう努めた。<br>・ネットトラブルに関する注意・喚起として、生徒向けのビデオ視聴を全校集会で実施するとともに、学年・学級でも適宜指導を行った。 | A | ・些細な事案に対しても、早期に対応してもらうなど良く対応してもらっている。そのことが、重大事案を出さないことにつながっている。今後も気を緩めずに取り組んでほしい。 | ・生徒指導主事<br>・教育相談担当教員<br>・生徒会担当教員 |
| | ●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。 | ●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上<br>●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒90%以上 | ・教育活動で生徒の「出番・役割」があり、それを承認・賞賛する実践<br>・キャリア教育の充実、学びの楽しさ・価値づけを図る。 | A | ・1年生はキャリア教育の「職業調べ」、2年生は職場体験を踏まえた「将来の進路について」、3年生は「高校体験入学」「高校説明会」を通して、自分の進路や将来に関して考えさせることができた。<br>・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒は95.0%であった。<br>・「将来の夢や目標を持っている」と回答した生徒は91.1%であった。 | A | ・「将来の夢や目標を持っている」と回答した生徒が91%以上もいるのは、素晴らしい。しかし、全国・学習状況調査の生徒意識調査では、県平均以下だったので、平均より上を目指してほしい。 | ・教務主任<br>・各学年主任<br>・進路指導主事 |
| | ○『自己指導能力の開発』を目指した生徒指導 | ○基本的生活習慣の確立と好ましい学習環境の確保（生徒主体による生徒指導の実践と生徒支援体制の確立）<br>○「自己指導能力の開発」に関するアンケートにおいて「成長することができた」と回答する生徒80%以上にする。 | ・集団指導と個別指導のバランスを図る。<br>・生徒指導協議会で、自己指導能力の開発に関わる研修を２回行った。「成長することができた」と肯定的な回答した生徒は98.1%であった。<br>・新型コロナ感染症やインフルエンザ対策として生徒会（保健委員会）を中心に掲示物や放送などで予防や対策などを図った。<br>・食育の大切さを家庭科の授業を中心に指導し、委員会活動で全校生徒へ呼びかけた。 | A | ・基本的な生活習慣が身についていると回答した保護者は80.7%、生徒は87.0%であった。<br>・生徒指導協議会で、自己指導能力の開発に関わる研修を２回行った。「成長することができた」と肯定的な回答した生徒は98.1%であった。<br>・新型コロナ感染症やインフルエンザ対策として生徒会（保健委員会）を中心に掲示物や放送などで予防や対策などを図った。<br>・食育の大切さを家庭科の授業を中心に指導し、委員会活動で全校生徒へ呼びかけた。 | A | ・全体としては目標を十分達成し、落ち着いた学校生活ができていると思う。学校だけでなく、保護者や地域との連携が必要である。 | ・生徒指導主事<br>・生徒会担当教員<br>・養護教諭<br>・食育担当教員 |
| ●健康・体つくり | ●安全に関する資質・能力の育成 | ●児童生徒の交通事故を０（ゼロ）にする | ・職員研修を年２回以上実施し、職員の危機管理意識を高め、緊急対応ができるようにする。<br>・講師を招聘しての交通安全教室の実施<br>・生徒会の交通委員会による交通マナー向上に対する取組 | B | ・交通安全教室を実施し、ルールやマナーの知識を深めた。「ルールやマナーを守れているか」のアンケートで、生徒は97.4%、保護者は91.3%が肯定的な回答をしている。また、地域から連絡があった場合には早急に対応をすることができた。<br>・全職員で下校指導をする日を設定し、交通ルールやマナーを遵守するよう指導を行った。 | A | ・自転車の並進が多いと聞くことがあるが、取組状況とアンケート結果はとても良いと思う。また、毎朝の正門や西門での安全登校指導についても積極的に実施してもらい、ありがたい。 | ・生徒指導主事<br>・生徒会担当教員 |
| | ○不登校対策 | ○昨年度の不登校生徒の割合（651名中31名…4.7%）から減少<br>・教育相談部会等を活用し、教職員や小学校との連携を密にしていく。<br>・「鍋島中学校に入学してよかった」と回答する生徒80%以上にする。 | ・日頃の観察や声かけ、定期的な教育相談を行う。<br>・校内教育相談部会を利用して情報を共有し、生徒たちへの適切な支援対策を検討して実施する。<br>・SCや専門機関と連携を密にとり、本人や保護者との面談を実施する。<br>・道徳や学活などの授業やカウンセラー講話などを通じて知らせる。 | B | ・昨年度の不登校生徒の割合4.7%（651名中31名）と比較して、今年度は5.3%（647名中34名）になり増加した。<br>・生徒の居場所づくりや不登校対策を講じた結果、「鍋島中学校に入学してよかった」と回答した生徒は94.6%、保護者は94.8%だった。<br>・教育相談委員会を定期的に開催し、情報共有や対応の検討を行った。また、卒業後の進路決定に向けて、担任が保護者と密に連絡を取ったり，SCやSSWと情報交換を行ったりすることに取り組んだ。 | B | ・不登校が増加した理由はいろいろあると思う。例えば、勉強不振を要因とする生徒がいるなら、学び合いをさらに充実させ、登校が促しやすい環境を今後も継続して取り組んでほしい。 | ・教育相談担当教員<br>・各学年主任 |
| ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | ●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 | ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。<br>・学校業務改善リーダーを中心とした定期的な協議会を開催する。 | ・校務サーバー上で各分掌担当者が情報共有を行いやすいように、フォルダ構成を工夫する。<br>・業務改善の視点で協議し、子どもと向き合う時間を増やすことにつながるように努める。 | B | ・校務サーバー内の不要なデータ削除を全職員で12月に実施することができた。<br>・全職員へのアンケートでは「時間外在校時間の上限を守れているか」で「守れていない」と回答した職員は10%であった。<br>・学校業務改善リーダー委員会を開催し、次年度へ向けた校時表の見直しを進めている。 | B | ・教員の未配置による負担増加があることを聞いたが、これまで以上に、業務改善は必要であるので、今後も継続して取り組んでほしい。 | ・管理職 |
| | ○部活動の負担軽減 | ○県や市、校内の部活動規則を遵守100%<br>・計画的な休養日の設定と実施90% | ・週２日の休養日の徹底<br>・複数顧問制を活かした指導の工夫により，時間外在校等時間を減らす。<br>・定時退勤日の設定と実行 | B | ・週２日の休養日や第３日曜日の活動休止は定着しており、全職員へのアンケートでは「部活動において計画的な休養日の設定ができている」92.5%、「少しできている」7.5%であった。<br>・定時退勤日の設定はできたが、全職員の実行が徹底できなかった。各自のスケジュール管理において、適切でない面があり、今後それを改善するように指導していく。 | B | ・部活動は子どもが対象となるべきものなので、教員は手伝いという考え方が必要である。社会体育を望んでいる子どももいるので、今後は社会体育が中心になるべきものだと思う。 | ・管理職 |

**（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目**

| 重点取組 | | | 具体的取組 | 最終評価 | | 学校関係者評価 | | 主な担当者 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 評価項目 | 重点取組内容 | 成果指標<br>（数値目標） | | 達成度<br>（評価） | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 | |
| ○特別支援教育 | ○教員の専門性と意識の向上 | ○特別支援に関する専門性が向上した教員80%以上 | ・保護者の理解・同意のもと、「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」を作成し、全職員で情報共有を行い、生徒一人一人の支援にあたる。<br>・定期的に校内支援会議を開催する。<br>・個に応じた適切な対応ができるように、外部講師を招聘して専門的知識を習得する研修会を実施する。 | A | ・支援が必要な生徒（通常学級在籍を含む）の「個別の教育支援計画」等を保護者と作成し、生徒の共通理解と支援をするための資料として活用した。<br>・定期的な特別支援教育委員会や全職員での校内研修において、特別支援教育に関わる情報共有を実施した結果、職員の92.5%が「理解を深めることができた」と回答している。 | A | ・今後も研修を積んで、特別支援教育への理解を深めてほしい。 | ・特別支援教育コーディネーター |

**●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育**

| | |
|---|---|
| 5　総合評価・<br>次年度への展望 | ・今年度は、校内研究1年目の主題を「主体的な学びの工夫」とし、「人と関わる力」や「自ら学ぼうとする態度」の2つの資質・能力を高めることを明確にしたことで、指針が決まった。その2つの資質・能力を身に付ける手法として、昨年度まで実施していた学び合いから「鍋中学び合い」へ幅をもたせ、全職員で取り組んだ。その結果、「鍋中学び合い」の授業を受け、90%以上の生徒が「学力が身に付いた」とアンケートに回答している。今後は、研究組織の3部会と連携した研究授業を実践し、研究の継続と深化を図りたい。<br>・生徒の居場所づくりや不登校対策を講じた結果、「鍋島中学校に入学してよかった」と回答した生徒や保護者が多かった。しかし、不登校生徒数が増加したことを踏まえ、hyper-QUテストを活用しながら生徒の自己肯定感を高めるような取組の実践をしていく必要がある。また、SCやSSWとの連携を密にし、学校と家庭が協力した支援体制の構築が必要である。 |